

# 川口市立医療センター 整形外科専門研修プログラム

## 目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 川口市立医療センター整形外科専門研修後の成果
3. 川口市立医療センター整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
  - 4.1 基本方針
  - 4.2 研修計画
    - ・ 専門知識の習得計画
    - ・ 専門技能の習得計画
    - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
    - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
    - ・ リサーチマインドの養成計画
    - ・ 学術活動における研修計画
    - ・ コアコンピテンシーの研修計画
    - ・ 地域医療に関する研修計画
    - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
  - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
    - ・ 専攻医の評価時期と方法
    - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
    - ・ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
      - ・ 専門研修プログラムの改善方法
  - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
  - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
  - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

## 1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様には質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった偏りのない医療を提供する使命があります。

現在、日本は急速に高齢化が進んでいます。埼玉県は県南部の地域も同様の傾向であり、この地域においては、整形外科の果たす役割が今後ますます大きくなることが予想され、したがって、質の高い整形外科医療が求められ、それを担う人材の育成が必要となります。

このプログラムでは、日本大学と連携しながら、地域医療に貢献できるプライマリ・ケアから療養・介護を含む老人医療を担える、幅広い視野をもった整形外科医を育てることを目標とします。

## 2. 川口市立医療センター整形外科専門研修後の成果

川口市立医療センター整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と、高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、地域医療を中心とした研修によって、専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと。

### 3. 川口市立医療センター整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

川口市立医療センター整形外科専門研修プログラムは、到達目標を「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師」としています。

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。地域医療で整形外科の果たす役割が非常に重要となります。このプログラムでは、高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。

川口市立医療センター整形外科は、骨折等の外傷を含む一般整形外科を中心に股関節外科、膝関節外科、脊椎外科を広く経験できる施設です。また、地域の中核病院として3次救急医療にも対応できる体制を設けており、多発外傷や骨盤骨折など重度外傷に対する診療を学ぶこともできます。川口市立医療センター整形外科専門研修プログラムは、専攻医の皆様に充実した研修環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。また、埼玉県地域枠として地域医療に貢献しようという志をもった専攻医の皆様にも、医師不足地域での地域医療研修義務と同時に多くの専門的な研修と研究の環境を提示できるプログラムとして環境を整えています。

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験して、質の高い技能と整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。連携施設には大学病院や小児病院もあり、比較的研修しにくい小児整形外科や骨軟部腫瘍の研修も可能です。また、連携施設には地域の第一線病院も多く、多様な疾患の多数症例の経験が可能です。

### 4. 研修方法

#### 4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準に沿って、川口市立医療センター（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。その中には、日本大学のプログラムと連携した研修も含まれます。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評

価します。また、指導医は症例カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

## 4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヵ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヵ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

### ① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

### ② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を川口市立医療センター及び連携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

日本大学整形外科医局研究会への参加(年10回)、さらに同会での研究発表(4年間で2回)を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文など）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。川口市立医療センターおよび各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群の中核は、埼玉県地域中核病院となります。したがって、すべての専攻医は連携する大学病院での研修以外は、埼玉県地域中核病院に勤務します。

#### ⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムは日本大学整形外科専門研修プログラムとも連携しているために、これらサブスペシャリティ領域の研修施設、スポーツ医学や人工関節手術に多くの実績のある施設も含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

### 4.3 研修およびプログラムの評価計画

#### ①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、(9月末および3月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた川口市立医療センターおよび各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

#### ②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

川口市立医療センターに専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年4回の定期委員会(6,9,12,3月)を開催し、年度末3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

#### ③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

#### ④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

#### 4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

#### 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

#### 4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
  - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
  - ③臨床医として十分な適性が備わっていること
  - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
  - ⑤1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の12月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

#### 5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

川口市立医療センターでは整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。埼玉県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

・【川口市立医療センター週間予定】

外来	月	火	水	木	金	土
	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
	膝・股関節 脊椎	膝・股関節 腫瘍	膝・股関節 腫瘍 手外科	膝・股関節 脊椎 腫瘍	膝・股関節 脊椎	

病棟	月	火	水	木	金	土
午前	手術	手術	手術	手術	手術	
午後	手術	手術	手術	手術	手術	

\*症例カンファレンスは、月曜日の午後 5 時 15 分、木曜日の午前 8 時 00 分より行う。

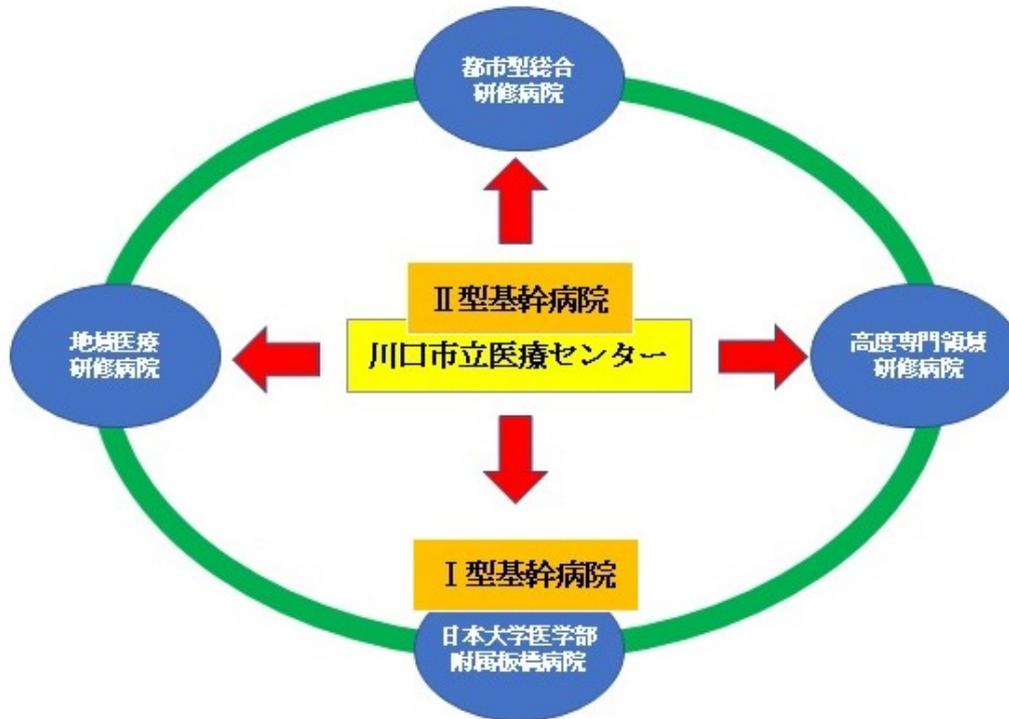
【本プログラムの連携施設群】

本専門研修プログラムでは連携施設として、I 型基幹病院として日本大学医学部附属板橋病院、都市型総合病院として日本大学病院、公立阿伎留医療センター、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、横浜中央病院、板橋区医師会病院、総合東京病院があり、さらに各分野の最先端医療を行う高度専門領域研修病院として、埼玉県立小児医療センター、苑田第三病院があります。また、その地域における地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)として春日部市立医療センター、東松山市立市民病院、はぎわら病院、本庄総合病院、小張総合病院、みつわ台総合病院があります。

都市型総合病院の日本大学医学部附属板橋病院、日本大学病院、公立阿伎留医療センター、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、横浜中央病院、板橋区医師会病院、総合東京病院では、病院の規模に差はありますが、救急医療としての外傷に対する研修に加えて、所属する指導医の専門分野に応じてサブスペシャリティ領域の専門性の高い研修(日本大学医学部附属板橋病院：上肢・脊椎・下肢・外傷・リウマチ・リハビリテーション・スポーツ・腫瘍、日本大学病院：上肢・脊椎・下肢・外傷・リウマチ・リハビリテーション・スポーツ、上肢・脊椎・下肢・外傷・リウマチ・リハビリテーション・スポーツ、公立阿伎留医療センター：下肢・外傷・リウマチ・リハビリテーション、独立行政法人国立病院機構災害医療センター：脊椎・上肢・下肢・外傷・リハビリテーション、横浜中央病院：脊椎・上肢・下肢・外傷・リハビリテーション、板橋区医師会病院：上肢・下肢・外傷、総合東京病院：上肢・下肢・外傷・リウマチ)をうけることができます。一方、高度専門領域研修病院の埼玉県立小児医療センターでは小児整形、苑田第三病院では脊椎の特化した専門性の高い研修を受けることができます。また、地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)として春日部市立医療センター、東松山市立市民病院、はぎわら病院、本庄総合病院、小張総合病院、みつわ台総合病院では、地域医療の拠点として地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。これらの他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。いずれの連携施設も豊富な症例数を有しており、毎年 100 件以上の手術執刀経験を積むことができます。同時に執刀

した症例は原則として主治医として担当することで、医師としての責任感や、患者やメディカルスタッフなどと良好な信頼関係を構築する能力も育成します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」（日本整形外科学会ホームページ参照）を参照して下さい。



### 【研修病院別ローテーション例】

本専門研修プログラムでの具体例を下記に示します。初年度には基幹施設で多数の手術と症例を経験し、2年目から3年目半ばまで連携施設で専門性の高い研修および地域研修を受けます。3年目半ばから4年目は基幹施設で研修となります。

	専攻医 1年目前半	専攻医 1年目後半	専攻医 2年目前半	専攻医 2年目後半	専攻医 3年目前半	専攻医 3年目後半	専攻医 4年目前半	専攻医 4年目後半
	川口	川口	川口	日大板橋	さいたま小 児／阿伎留	板橋医師会	日本大学	川口
脊椎6単位	2			2			2	
上肢手 6単位		2				2	2	
下肢6単位					3	2	1	
外傷6単位	4	2						
リウマチ 3単位			3					
リハビリ 3単位		2			1			
スポーツ 3単位				2			1	
地域医療 3単位			3					
小児2単位					2			
腫瘍2単位				2				
流動5単位						2		3
合計 45単位	6	6	6	6	6	6	6	3

\*実際の研修期間は連携施設との兼ね合いにより異なる場合があります。

### 【研修病院群と指導可能な研修領域】

施設名称	都道府県	新患数 (2020)	手術数(2020)										研修可能 領域*
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計		
川口市立医療センター	埼玉	1682	135	67	172	668	17	21	5	29	1114	1,2,3,4,5,6,7,8	
日本大学医学部附属板橋病院	東京	1836	239	65	407	314	31	67	42	100	1265	1,2,3,4,5,6,7,8	
日本大学病院	東京	2175	149	216	127	403	0	129	26	14	1063	1,2,3,4,5,6,7	
公立阿伎留医療センター	東京	1896	10	6	17	173	3	3	0	1	213	3,4,5	
独立行政法人国立病院機構災害医療センター	東京	673	61	9	136	255	5	11	10	15	502	1,2,3,4,5,6	
横浜中央病院	神奈川	1288	30	37	47	218	0	2	3	1	338	1,2,3,4	
板橋区医師会病院	東京	1102	0	51	16	120	1	2	0	9	199	2,3,4,6,7,8	
総合東京病院	東京	972	0	16	24	253	0	45	7	0	345	2,3,4,5,6	
埼玉県立小児医療センター	埼玉	805	13	30	49	116	0	11	164	24	407	2,3,4,7,8	
苑田第三病院	東京	1576	448	0	9	0	0	2	0	0	459	1	
春日部市立病院	埼玉	1237	2	42	69	148	0	5	0	22	288	1,2,3,4,5,6	
東松山市立市民病院	埼玉	1509	40	22	114	140	1	2	7	5	331	3,5,4	
ほぎのら病院	千葉	2360	42	28	36	346	3	3	2	5	465	1,2,3,4	
本庄総合病院	埼玉	2799	97	63	95	95	0	12	0	2	364	1,2,3,4,5,6	
小張総合病院	千葉	3173	184	11	62	300	0	10	13	14	594	1,2,3,4,6	
みつわ台総合病院	千葉	2507	51	96	46	457	0	2	0	0	652	1,2,3,4	
		27560	1501	759	1426	4006	61	327	278	241	8599		

## 6. 専門研修プログラムを支える体制

### ① 専門研修プログラムの管理運営体制

Ⅱ 型基幹施設である川口市立医療センターにおいては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために川口市立医療センターに専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

### ② Ⅱ型基幹施設の役割

Ⅱ型基幹施設である川口市立医療センターは専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

川口市立医療センターは研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

### ③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

### ④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 川口市立医療センターは連携施設とともに研修施設群を形成します。川口市立医療センターに置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

#### ⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導員の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である川口市立医療センターにおける研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

#### ⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

川口市立医療センターや各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・ 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・ 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・ 施設の給与体系を明示します。

#### 7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 2 名 合計 8 名

## 【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

川口市立医療センター整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<https://kawaguchi-mmc.org/>

- 必要書類： ① 申請書（ダウンロード）  
② 履歴書（ダウンロード）  
③ 医師免許証（コピー）  
④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）  
⑤ 健康診断書

【募集期間】7月末～9月末

## 【問い合わせ先】

〒333-0833 埼玉県川口市西新井宿 180

川口市立医療センター整形外科

担当：石井 隆雄（研修プログラム統括責任者）

Tel: 048-287-2525      mail: t-ishii@rc5.so-net.ne.jp